

## 奨学一時金（国際会議等参加費支援）受給者報告

### 初めての国際会議

大学院理工学研究科博士前期課程 機械システム工学専攻 1年 橋村 紀香



初めまして。橋村紀香と申します。今回私は奈良県にて開催された国際学会 ICPE2022\*に参加しました。この学会は私にとってはほぼはじめての学会参加と言ってもいいものでした。というのも、昨年度卒業研究時にも学会参加や卒業発表等の機会はありましたがいずれもオンラ

イン開催のものであったため、対面で発表するのは初めてのことでした。そのため、非常に緊張しましたが、良い経験となったと思います。

ICPE (International Conference on Precision Engineering) は 5 日間開催され、初日はウェルカムレセプション、2～4 日目にそれぞれの発表等があり、5 日目は工場見学という構成でした。日本での開催ということもあり日本人の参加者の割合は高かったですが、それでも外国からの参加者も多くいらっしゃいました。

初日のウェルカムレセプションは用意された別会場にて開催されました。立食パーティのような形式で乾杯の後は歓談の時間となりました。私のような学生の参加者から企業から来たであろう参加者もいらっしゃいました。ただ、やはり工学系ですので女性の割合は 1～2 割程度とかなり少なかったです。そのほかマグロの解体ショーがあったりもしました。そのマグロを用いたお寿司のほか、洋風のおつまみのような食事が提供されました。飲み物もワイン等のアルコールやノンアルコールも完備されていました。三日目にはバンケットがホテルの宴会場で開催されました。こちらはウェルカムレセプションとは異なり、座って食べるコース料理で前菜からデザートまで順番に出してきました。アルコールについてもワインやウィスキー、カクテルなどが用意されており、満足度の高いものでした。また、弦楽三重奏のパフォーマンスや発表者の表彰などが行われました。

私の発表は 4 日目で分子動力学を用いたシミュレーションについての発表を行いました。ICPE は国際会議ですので、もちろんすべての発表や質疑応答は英語で行われます。ですが、私はそもそも英語が大の苦手でした。簡単な単語や文法はわかりますが、文章が長くなったりすると途端にわか

らなくなってしまう。日本語による発表であれば事前に台本を用意せずともその場で文章を修正することも可能ですが英語だとそれが難しいため、事前に台本を用意し読み込む必要があり苦労しました。実際の発表においては少し詰まりながらも発表自体は問題なく行えたと思います。ですが、緊張からか頭が真っ白になってしまい、質疑応答などは少し失敗してしまいました。私に十分な英語力があればまだ何か言えたのかもしれませんが、考えても言葉が出てこず無言の時間が多くできてしまったのは反省点の一つとなっています。

ネガティブな感想が多くなってしまいましたが、それでも私にとってはいい経験になったと思います。私はもともと人の前に出るのが得意ではなく今回の学会も先生から頼まれての参加でした。そのため自分の殻を破るいい機会になったのではないかと考えています。

最終日の 5 日目は工場見学で、スポンサーの DMG 森精機様の商品開発を行っているビルや製品の組み立てを行っている工場へ訪問させていただきました。工作機械の異常検知技術や無人でも工場稼働が可能な技術など、いままで人力で行われてきた作業の自動化についての技術が多かったように感じました。

最後に、学生の皆さんへ。国際会議というとてもハードルの高いもののように感じてしまうと思います。実際私もそうでした。ですが、皆さんが思うよりそのハードルは低いものかもしれません。ぜひ、怖がらずに参加してみてください。今回私に参加する機会をくださった担当教授および研究を助けてくださった研究室の皆様、そのほか支えてくださった皆様に感謝申し上げます。



写真. 発表の様子